

8月～9月の2か月間、藤本幸久・影山あさ子が、キャラバン上映で全国をまわります。
みな様のところにも、ぜひ、うかがわせてください。

2023年7月8日
森の映画社 藤本 幸久
影山あさ子

暑い日が続きますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

8月～9月、藤本・影山が、車に上映機材を積んで全国をまわります。北海道から関西まで、現在、14ヶ所の上映が決まっています。皆様の場所でもキャラバンを受け入れて頂きたく、ご案内をお送りいたします。

キャラバンに用意している内容は、以下の二つの映像レポートと講演です。

(1)「沖縄・琉球弧を戦場にするな」

自衛隊の新基地建設とミサイル配備が急激にすすむ馬毛島、奄美、宮古島、石垣島、与那国島の現実と人びとのたたかい、沖縄の米軍基地と戦争計画について、私たちの取材映像を使って講演。映画「One Shot One Kill」の海兵隊ブートキャンプの映像、沖縄での訓練の様子も交え、米海兵隊の訓練で、ヒトがどのように人を殺せる兵士に育てられているのかもお伝えします。

(2)「^{Global Climate Change}地球規模の気候変動とたたかう先住民-アメリカ、カナダ、アラスカ」

昨年10-11月と今年5-6月の2度にわたり、アメリカ、カナダの先住民を取材した映像レポートと講演。日本に暮らすアイヌ同様、サケをとって暮らしてきた北米の先住民。アメリカワシントン州の20のトライブは、1974年に漁獲量の半分という巨大な権利を先住民の権利として取り戻しました。しかし、50年後の現在、あるトライブの川では、かつて数千万匹だったサケの遡上が、数千匹にまで激減。サケは冷水で育ちます。水源の氷河が融け、水温は上がり、豪雨と洪水でサケの産卵床が押し流されています。彼らは今、地球規模の気候変動と真正面から闘っています。サケの遡上を阻む巨大なダムを撤去させ、川を守り、孵化事業と最新の科学でサケを守っています。カナダの先住民たちは、網や船を壊されても、幾度逮捕されても、サケをとり続けることでその権利を守ってきました。不法な森の木の伐採に対しても、国道を封鎖し闘ってきました。体をはって、サケと森を守っています。アラスカでは、州政府にサケ漁を禁じられただけでなく、永久凍土が融け、食料とするシカやムースの移動経路が変わり、植生も変わり、文字通り、生存の危機に瀕しています。

講演料（交通費・宿泊費込）5万円で、8月～9月の2か月間、みなさまの所へうかがいます。宿泊をご提供いただければ、講演料は4万円で結構です。上映機材は車で持って行きますので、会場をご用意ください。

(1)と(2)、どちらも2時間のプログラムです。ご希望のプログラムをお申し込みください。皆様とお目にかかれるのを心より楽しみにしています。

問い合わせ先：影山あさ子事務所/森の映画社札幌編集室

morinoeigasha@gmail.com FAX 011-351-1068

電話 090-2052-9902 (影山) 090-8278-6839 (藤本)

〒004-0004 北海道札幌市厚別区厚別東4条8丁目17-12、2F